

私たちの身近な自然環境

村田 光

1. 探究の背景と目的

私は小さい頃から生き物に興味があり、高校の総合的探究の時間では、生物について探究していた。そこから、生物にとって周りの環境が重要であると分かったため、今回は自然環境について、実際に体験しながら調査した。すると、自然環境で行う野外活動は、私たちの精神面に良い影響を与えていることが分かった。

本報告の目的は、野外活動の楽しみ方やメリットを発信することで、多くの人に野外活動を行うきっかけを提供し、自然環境について関心・興味をもってもらうことで、自然環境破壊の防止に少しでもつなげることである。

2. 野外活動とその成果

(1) みどりフレンズ

まず、私は身近にある弘前公園を中心に野外活動を探した。その中からみどりの協会が運営しているみどりフレンズというボランティア活動を見つけ、実際に参加した。その日は猛暑の中で作業をしたため、想像以上に体力を奪われたが、一緒に活動したスタッフの方からアジサイのことやこの仕事の楽しさ大変さなどを教えていただき、さまざまな人と交流したことで時間を忘れ、楽しく活動を終えた。



あじさいの間引き作業

その中で私が疑問に思ったことは、弘前中央高校からの参加者が見られなかったことである。周りの人から意見を聞くと、学校と部活で時間がなかったり、楽しみ方を知らなかったり、メリットがないと思っていたりして、そうした活動には参加しないという人が多かった。その中でも、私はとくに楽しみ方やメリットについて注目した。

(2) バードウォッチング

野外活動の楽しみ方やメリットについて探究するために、次の野外活動に参加した。身近に行われている野外活動の中で取り上げたのは、日本野鳥の会が運営している探鳥会（バードウォッチング）である。その日は天気が良く、多くの野鳥を観察できた。今まで意識して身近にいる野鳥を見ることはなかったため、予想以上に多くの種類の野鳥がいることに気付かされた。また、他の参加者の方々から野鳥についての知識をたくさん教えていただき、楽しみながら新しい知識を得ることができ、貴重な体験となった。



バードウォッチング

(3) 精神的な変化

このような野外活動をした後、私の精神面や行動に変化が現れた。第1に、活動後から不思議な満足感や達成感を感じたことである。それを感じたことで、時間と心に余裕をもつことができ、本当に自分のやりたいことに集中することができた。第2に、人とのコミュニケーションが楽しくなったことである。活動しているときだけでなく、学校にいるときも、あまり話したことがない友達と話してみたり、挨拶を前よりも心がけてみたりするなど、人とコミュニケーションを取ろうとする意思が強くなった。第3に、なんでも積極的にやってみようと思うようになったことである。面倒くさい、まだやらなくてもいいだろうと思うことが少なくなり、自然に自分からやろうと思えるようになった。その変化から、新しいことに挑戦してみたり、やりたいことをすぐに実行したりできるようになった。

この3つの精神的な変化から、野外活動をすると、行動力・積極性・コミュニケーション能力が身に付くのではないかと考えた。

(4) センス・オブ・ワンダー

私の考察が正しいのか確かめるために弘前大学の大学院生の方に相談したところ、レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー』（1965年）を勧められた。まず、センス・オブ・ワンダーとは、神秘さや不思議さに目を向ける感性、つまり、自然に目を向け、感動することを表す。レイチェル・カーソンは、「セン・オブ・ワンダーを持つ人は人生に飽きたり疲れしたり孤独に苛まれることがない。必ずや内面的な満足感と生きていることへの新たなよろこびを見つけられる。そして生命の終わりの瞬間まで生き生きとした精神力をもつ」と言っている。

私も野外活動をしたことが精神面に良い影響をもたらし、それが行動に現れた。このことは私だけでなく、多くの人にも当てはまると確信した。

3. まとめ

私たちは身近な野外活動に参加することで、新しく得た知識を見つけ、喜びを感じることができる。また、満足感や生き生きとした精神力を得て、行動力や積極性、コミュニケーション能力などを身に付けることができる。このような楽しみ方やメリットを多くの人に発信することができれば、野外活動に参加する人が増加し、自然環境について考える人が増えるだろう。そうすれば、自然環境破壊の防止に少しでもつながると考えられる。

【追記】消費者フォーラム in HIROSAKI での発表を終えて

今回、私は消費者フォーラム in HIROSAKI という場でより多くの人に自然環境や野外活動について知る機会になってほしいと思い、発表した。私自身も大きな場所での発表は初めてだったため不安もあったが、堂々と自分の言いたいことを伝えることができた。この経験は、大きな自信につながり、これからいろいろな場面で役に立つと思われる。そして、この自信を糧に、これからも自分の探究を深めていきたい。

（村田 光 弘前中央高等学校）